

オウトウナメクジハバチ

夏にサクラやナナカマドなどの葉を食べるイモムシ（幼虫）。最大長約15mm。黒から茶色のゼリー状の物質で覆われる。葉の表面だけを食べ、食べ痕は茶色に変わり目立つ。

庭などでしばしば多発する。



1. 幼虫，体長10mm。2000/8/31.

北見市，庭のエゾヤマザクラ。

【学名】 *Caliroa cerasi* 【分類】 ハチ目 (Hymenoptera) , ハバチ亜目 (Symphyta) , ハバチ科 (Tenthredinidae)

【分布】 日本；ヨーロッパ，北米.

【生態】

宿主：バラ科（サクラ，モモ，ナシ，ナナカマドなど），カキ.

北海道では年2世代。幼虫の食害は7月下旬頃と8月下旬頃に目立つ。葉の上面の葉肉だけを食べる。葉のところどころに黄色や茶色の食べ痕が残る。十分成長した幼虫は土に潜って繭になる。繭の中で前蛹になって越冬する。

発育ステージ	～3月	4	5	6	7	8	9	10	11～
成虫・卵				・○○	○・・○	○○・・			
幼虫（摂食・成長）				・・	■●●	●●■●	・・		
繭内，幼虫～蛹	+++	+++	+++	++++	・・+	・・	・・+++	+++	+++

【被害と防除】

庭木などでしばしば多発する。食害による樹勢の低下や枯死は記録がないようである。

気になるときは幼虫を取り除く。

【文献】

1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病虫害図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (生態, 被害, カラー写真).

北海道立林業試験場・緑化樹センター

オウトウナメクジハバチ habachi/otoname/
kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/8/3-2002/1/4.

yochu.JPG

「写真1」原秀穂, 北海道立林業試験場, 2000.